活動実績

クーポン利用者数

8,036※累計人

クーポン提供総額

16※累計億円

クーポン利用先数

4,541教室

クーポンを利用した子どもの声

4人兄弟の一番上で、何かと我慢をしてきましたが、クーポンを使って塾に通えると聞いたとき、うれしい気持ちでいっぱいになりました。塾に通うようになって友達もふえて、やりたいことができる高校にも合格しました。これからも頑張っていきます。

（東京都／高校1年生）

小学1年生の時、ピアノを習っている友達をいつも「いいなぁ」と思って見ていましたが、母子家庭の私は「ピアノを習いたい」と母に言うのをためらっていました。そんな時、学校からもらったCFCのチラシを見つけ応募したのがきっかけで、ピアノを習い始めました。私は今年中学3年生になりました。将来の夢はまだはっきり決まってはいないのですが、夢の1つに習ったピアノを生かせる保育士なども考えています。

（宮城県／中学3年生）

法人概要

名　　称	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン Chance for Children, Inc.
創　　業	2009年11月1日
法人設立	2011年6月20日（2014年1月6日より公益社団法人へ移行）
所 在 地	＜本部事務局＞ 東京都墨田区錦糸1丁目11-1 ノイエヤマザキ5階 ＜仙台事務局＞ 宮城県仙台市青葉区本町1丁目13-24 錦ビル7階 ＜関西事務局＞ 兵庫県西宮市甲風園1丁目3-12 カミヤビル3階

沿革

2009年11月	NPO法人ブレーンヒューマニティーのプロジェクトとして「子どもの貧困撲滅プロジェクト “Chance for Children”」発足。
2011年6月	東日本大震災を契機に独立し「一般社団法人チャンス・フォー・チルドレン」を設立。被災した子どもたちへの支援活動を開始。
2012年7月	クーポン型の学校外教育費助成事業が大阪市で初の政策化。
2016年5月	熊本地震緊急支援事業を実施。
2018年4月	スタディクーポンを全国で「政策化」するために渋谷区との協働事業を開始。
2018年8月	西日本豪雨緊急支援事業を実施。
2020年5月	新型コロナ緊急支援事業を実施。
2022年4月	関東地域の経済的な困難を抱える子どもへの支援活動を開始。
2022年4月	子どもの体験奨学金事業「ハロカル」を開始。
2024年2月	能登半島地震緊急支援事業を実施。

ご寄付のお願い

私たちの活動は、皆さまのご寄付によって支えられています。
私たちと一緒に子どもたちの学びを支えてください。

CFCサポート会員として支援

毎月1,000円からの継続的なご寄付で、
子どもたちの成長を支える方法です。

今回のみのご支援

ご都合の良いときに、任意の金額をご寄付
いただけます。

※内容は2024年11月末時点の情報です

お問い合わせ

03-5809-7394　info@cfc.or.jp　https://cfc.or.jp

多様な学びを
すべての子どもに

Chance for Children

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

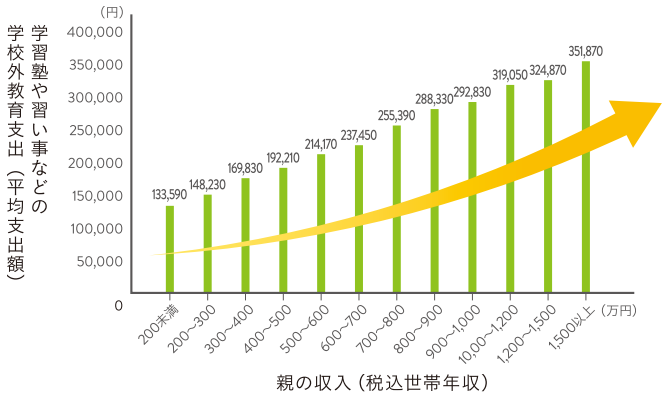
日本では約9人に1人の子どもが相対的貧困状態にある

相対的貧困とは、その国の文化・生活水準と比較して困窮した状態を指します。相対的貧困では、その社会での標準的な生活を送ることができず、例えば食事、医療、教育等で困りごとが生じます。外見では認知が難しく、長年問題が放置されてきました。

「所得格差」が「教育格差」に

日本では、所得格差による教育格差が放課後（学校外）で生まれています。学校外の学びは、公教育だけでは包括できない子どもの個別的な課題やニーズに応える役割を担っています。経済的困難を抱える家庭の子どもほど、学校外での学習・体験機会を得られません。

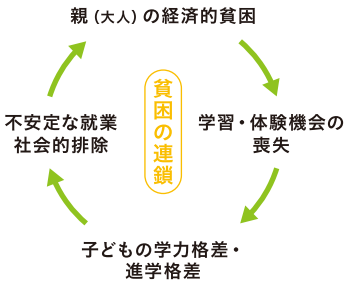
● **1年間の「世帯収入」と「学校外教育支出」の関係**（中学3年生）



出典：国立大学法人お茶の水女子大学「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」より作成　※学校外教育支出が5,000円未満という回答は2,500円として、50,000円以上は50,000円として各世帯収入ごとの平均値を計算。

「教育格差」は貧困の世代間連鎖を生む

親の経済的貧困は、子どもから学習や体験の機会を奪うことにつながります。これらの教育機会の格差は子どもの学力格差や進学格差を生み、将来的には職業選択にも影響を及ぼし、貧困の世代間連鎖を生みます。この連鎖を断ち切るには、学習・体験機会のサポートが必要だと考えています。

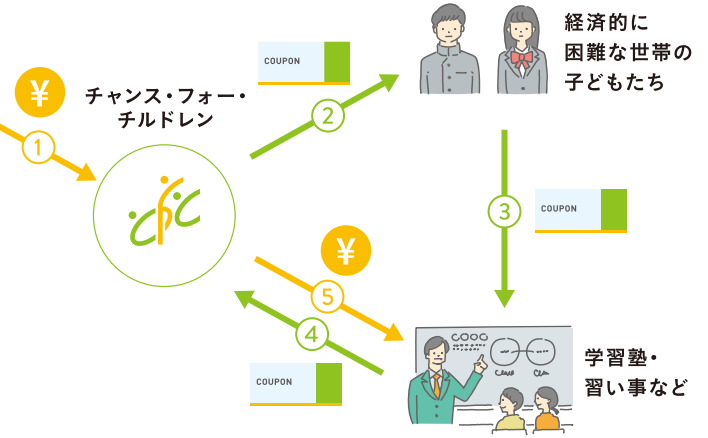


スタディクーポン＆ハロカルで

子どもの教育格差・体験格差を解消する

貧困の連鎖を断ち切るためには、子どもの教育格差・体験格差の解消が必要です。私たちは、経済的に困難な家庭の子どもたちを「スタディクーポン」や「ハロカル」という仕組みでサポートしています。

寄付者
（個人・企業）



スタディクーポンとは？

経済困窮家庭の小～高校生に対し、学習塾や習い事等で利用できる教育クーポンを提供

ハロカルとは？

経済困窮家庭の小学生に対し、スポーツや芸術、キャンプ等に利用できる体験クーポンを提供

特徴1　クーポンの使途は、子どもの学校外の学習や体験活動に限定

特徴2　子ども本人がやりたいことを自分で選択することが可能

学習塾、スポーツ教室、音楽教室、野外活動など、多くの教室がクーポン利用先として参画しています。

特徴3　大学生ボランティアやコーディネーターによるクーポン利用のサポート

大学生ボランティアの活動

大学生ボランティアは月に一度、子どもと面談を行い、学習や進路等の相談に乗ります。年齢の近い大学生が子どもたちにとってのロールモデルとなります。

日本全国に取り組みが広がっています

CFCの自主事業として（寄付が原資）
岩手県、宮城県、福島県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府、兵庫県

自治体の協働事業として
東京都渋谷区・国立市・多摩市・葛飾区、千葉市、神奈川県鎌倉市・綾瀬市、長野市、佐賀県上峰町　等

「ハロカル」提供地域
ハロカル北海道、ハロカル東東京、ハロカル岡山、ハロカル沖縄